

近畿地方の指導にあたって ～歴史的背景を中核とした考察

●『学習指導要領解説』の抜粋

日本の諸地域について、幾つかに区分し、その地域的特色や地域の課題を理解する。次の①から⑤までの考察の仕方を基に、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、知識及び思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるよう指導する。

①自然環境を中核とした考察の仕方、②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方、③産業を中核とした考察の仕方、④交通や通信を中核とした考察の仕方、⑤その他の事象を中核とした考察の仕方。

⑤その他の事象を中核とした考察の仕方

例えば、地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事象、地域の環境問題や環境保全の取組、地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象などを中核として、地域的特色や地域の課題を捉えることが考えられる。そこに暮らす人々の生活・文化、地域の伝統や歴史的な背景、地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点(内容の取扱い)については、従前の学習指導要領で考察の仕方として用いていたもので、これらの視点は、適切に区分された地域においても関連させることができる。

●指導上の留意点

近畿地方の学習にあたっては、地域的特色をとらえさせるうえで歴史的背景を中核とした考察が有効である。近畿地方は古代から都がおかれたことから、貴重な文化財が多く存在する。それら文化財は、中国をはじめとするさまざまな地域との交流によって生み出されてきたものであり、伝統的な地場産業にもつながるものである。そうした歴史的背景は、現在の京都や奈良の観光や伝統的な景観の保存ともかかわっている。

近世以来、「天下の台所」として全国の物資流通の中心であった大阪は、近代になると商業ばかりでなく工業都市としても発展し、阪神工業地帯が形成された。阪神工業地帯はアジア諸地域との関係を中心に発展を遂げ、戦前においてはほぼ日本最大の工業地帯であり続け、沖縄あるいは朝鮮半島からも労働者を引き寄せた。

しかし、高度経済成長のなかで、大阪経済は「地盤沈下」を続け、特に卸売・小売業や金融・保険業は、首都圏への一極集中が進むことにより、全国の経済活動に占める近畿圏の割合が小さくなっている。とはいえ、経済活動の規模自体は拡大しており、貿易相手先としてはアジアの国や地域が占める割合が大きく、こうした面にも歴史的背景が見てとれる。

●ワークシートの単元構成 《想定する時間数:全体で5時間》

時数	単元名	学習内容	主な学習項目	ページ
1	近畿地方をながめて	近畿地方の位置と範囲 構成する府県と大都市	おもな地形、府県名と大都市 古い歴史と文化	p.68
2	京都・奈良の 伝統的な景観	世界遺産や伝統的な景観と観光、 伝統的な地場産業	世界遺産、地場産業 四季と観光客数	p.69
3	工業のあゆみ	阪神工業地帯の形成と現状 町工場	近畿地方の工業地域、工業生産額の変 化 東大阪市の工場	p.70
4	経済活動の変化と 人々の暮らし	大規模な都市開発と市街地の広 がり、経済活動の変化	鉄道路線、ニュータウン、空港 三大都市圏の比較	p.71
5	近畿地方のまとめ	大きくとらえた近畿地方 貿易と歴史的背景	白地図上に主な地名や語句を整理する 関西国際空港の貿易先	p.72

近畿地方 ①

近畿地方を ながめて

●学習のねらい●

近畿地方の地形や大都市をながめるとともに、この地方が古い歴史をもつことを確認しよう。

近畿地方の地形は、南北の山地部と中央の低地部に分けることができます。北部にはなだらかな中国山地・丹波高地が広がり、南部の紀伊半島はけわしい紀伊山地が広がっています。中央部には大阪平野や京都盆地・奈良盆地などが広がっていますが、大きな平野はありません。こうした平野や盆地には京都・大阪・神戸・堺などの都市が連なり、多くの人口が集まる京阪神大都市圏が形成されています。

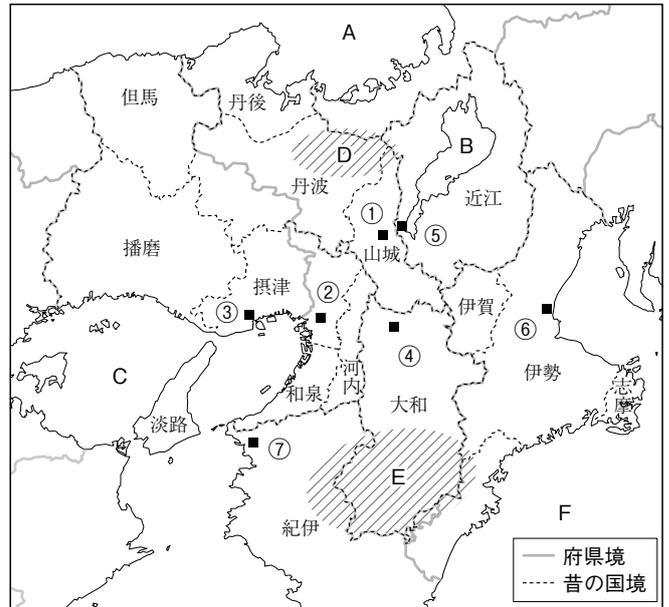
近畿地方には古代より都がおかれたため、古い歴史と文化をもつ地域が多くあります。もともと都（畿）に近い大和・河内・摂津・山城・和泉の5か国を畿内とよびました。そして、畿内に近い現在の京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀・三

重・和歌山の2府5県にあたる地域を近畿とよぶようになったのです。

近畿地方は、北に日本海、南に太平洋を臨み、西は瀬戸内海を経て九州地方・四国地方につながり、東は琵琶湖を経て中部地方へとつながります。こうした水上交通の要衝としての条件が、古代から中世にかけて、大陸と結びつく基礎となり、中国などの進んだ政治制度や科学・文化などを受け入れてきました。近世には西回り・東回りの航路によって日本各地と結ばれ、当時の日本経済の中心でした。近代に入ると、アジア地域、さらに世界各国との貿易の拠点となり、その後の阪神工業地帯の発展へと結びつきました。

課題 1 右の地図に現在の府県境を赤色でなぞり、①～⑦に当てはまる府県名と府県庁所在地名を次の表に記入しよう。

	府県名	府県庁所在地名
①		
②		
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		



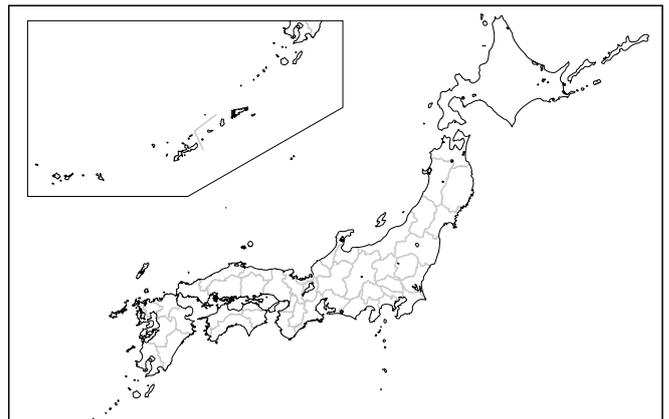
課題 2 右上の地図で、畿内にあたるところを、水色で着色しよう。

課題 3 右上の地図のA～Fに当てはまる地名を、右の欄に記入しよう。

A	海	B	湖
C	海	D	高地
E	山地	F	洋

課題 4 次の表は、国宝・重要文化財の建造物が100棟をこえている都府県です。それぞれの都府県を右の日本地図に赤色で着色しよう。

都府県	棟数	都府県	棟数
栃木	169	大阪	212
東京	189	兵庫	268
山梨	109	奈良	403
長野	169	和歌山	149
愛知	154	岡山	156
滋賀	262	広島	114
京都	698	愛媛	123



近畿地方 ②

京都・奈良の
伝統的な景観

●学習のねらい●

京都と奈良の文化財や
伝統的な地場産業について
調べよう。また、景観を守
る方法を調べてまとめてみ
よう。

奈良は、8世紀に栄えた平城京のあとに、春日大社や東大寺の門前町から発達した都市です。昔の平城京の跡は広い範囲で保存され、発掘や復元が進められています。「遷都1300年」をむかえた2010年には、大極殿が復元されました。興福寺の南、「ならまち」とよばれる一帯は、元興寺の境内を中心に発達したまちです。江戸時代の末期から明治時代の街並みが今も残っています。

平安京の都であった京都は、碁盤の目状に整然と区画され、そのなかに歴史的な寺や神社などがあります。産寧坂地区を含む八坂神社から清水寺につながる石畳の道筋には、昔ながらの街並みが続いています。一方で京都は、人口約150万人が暮らす大都市です。そのため、

急速な都市開発が進む中で京都らしい景観をどのように守っていくのか、長年議論されてきました。その結果として京都市は、1972年に「市街地景観整備条例」を制定しました。この条例は、伝統的な街並みを保存するために、指定された地域で建物を新築・改築するとき、市が定めた決まりに従った場合は補助金を支給するというものです。そのほかにも、建物を建築する際の高さやデザイン・野外広告を制限したり、歴史的風土保全地区を指定したりするなどの法律や条例が定められています。しかし、高層ホテルや京都駅ビルの建設時に問題になったように、住民の生活や企業活動と街並み保存をどのように調和させていくかは、とても難しい問題です。

課題1 右の地図の①～⑥に当てはまる社寺や史跡の名称を、次のア～カから選んで下の欄に記入しよう。

- ア 鹿苑寺金閣 イ 慈照寺銀閣 ウ 平等院鳳凰堂
エ 清水寺 オ 平城宮跡 カ 法隆寺

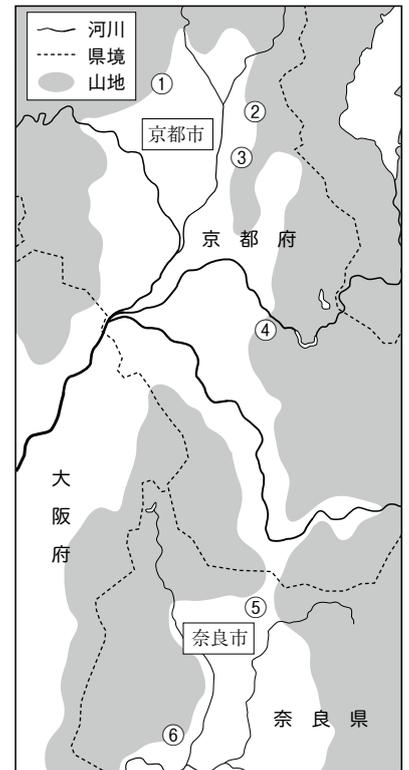
①	②	③
④	⑤	⑥

課題2 右下の「京都・奈良の観光客数」の表で、それぞれ観光客数の多い月を、上位から三つ選んで赤色で囲もう。

課題3 京都と奈良の伝統的地場産業について調べて書き出そう。

京都	
奈良	

課題4 京都で伝統的なまちなみを守るために、どのようなことが制限されているか、調べてまとめよう。



京都市・奈良市の観光客数(単位:万人 2019年)

		京都市	奈良市
春	3月	480.2	172.9
	4月	490.3	152.2
	5月	459.5	181.6
夏	6月	406.2	143.0
	7月	425.5	122.4
	8月	452.7	133.3
秋	9月	437.3	126.7
	10月	427.5	155.4
	11月	493.8	181.2
冬	12月	461.4	129.5
	1月	439.1	126.6
	2月	378.0	116.3

近畿地方 ③

工業のあゆみ

●学習のねらい●

阪神工業地帯の特色や移り変わり、最近の動きを調べてみよう。

大阪湾岸と淀川流域から大阪市の東側に広がる工場の集中している地域は、阪神工業地帯とよばれています。阪神工業地帯は、江戸時代以前から大阪が商業の中心であったことから、明治時代に入り繊維や日用雑貨、食品などの軽工業を中心として発達し、1940年前後の一時期を除いて常に日本で最大の工業地帯でした。第二次世界大戦後は、大阪市から門真市・守口市などにかけての内陸部で家庭電気製品を中心とする機械工業が発展しました。また、臨海部の海を埋め立てて、鉄鋼や石油化学などの重化学工業を中心とした堺・泉北臨海工業地域や播磨臨海工業地域がつくられ、多様な工業がみられるようになりました。

しかし、阪神工業地帯は多くの部品

を必要とする自動車工業や機械工業が他の工業地帯と比べて少ないことや、臨海部の鉄鋼や造船、石油化学工業設備の老朽化や生産の伸び悩みによる工場の閉鎖・移転が進んだことから、全国の工業生産額に占める地位は年々低下しています。

一方で近年、大阪湾ベイエリア地区は、大規模な工場跡地にレジャー施設や商業施設、大規模な会議や展示会などを開催するコンベンション施設が建設されるなど、工業以外の開発が進んでいます。また、プラズマパネルや液晶パネルなどの最先端の工業製品を生産する大規模な工場が、尼崎市や堺市に進出しており、これによって工業生産額が近年少しずつ回復しています。

課題 1 右のグラフは、阪神工業地帯における工業品生産額割合の変化を表したものです。A～Eに当てはまる工業の種類を、次のア～オから一つずつ選んで、記号を記入しよう。

0(%)		50					100
1983年 総額 35兆 751 億円		A 27.5%	B 9.9	C 17.5	D 21.8	E 6.2	その他 17.1
2018年 総額 34兆 5443 億円		A 37.7%	B 10.9	C 16.8	D 20.9	E 1.3	その他 12.4

ア 鉄鋼・金属 イ 機械 ウ 繊維 エ 化学 オ 食品

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

課題 2 阪神工業地帯も含めて、日本の工業地帯が集中している一帯を何といいますか。 ()

課題 3 大阪府東大阪市は、全国でも有数の、工場が集中して立地しているところです。それらの工場の中には、「オンリーワン企業」とよばれる、そこにしかない技術を持つ企業が多くみられます。次の表を見て、東大阪市の工業の特色について、まとめよう。

【製造業における従業員規模別の事業所数】 ※ () 内は%

	全国	東大阪市
総数	348,322	2,348
1～29人	302,325 (86.8)	2,022 (86.1)
30～299人	42,452 (12.2)	317 (13.5)
300人以上	3,545 (1.0)	9 (0.4)

※2019年6月1日現在 (2018年実績) (「2019年 工業統計表」ほかより)

【製造品出荷額等の内訳】

	全国	東大阪市
1位	輸送用機械 21.0%	金属製品 18.8%
2位	食料品 9.0%	生産用機械 13.9%
3位	化学 8.9%	鉄鋼 9.7%
4位	生産用機械 6.7%	プラスチック製品 9.4%
計	334兆 6,804 億円	1兆 2,009 億円

※2019年6月1日現在 (2018年実績) (「2019年 工業統計表」より)

近畿地方 ④

経済活動と人々の暮らし

●学習のねらい●

京阪神大都市圏の拡大と近畿圏の経済活動の様子を調べてみよう。

1960年代ごろまでの日本の経済の中心地は、西日本では大阪、東日本では東京でした。ところが、政治と経済のつながりが重要になると、経済活動において管理機能と情報が集まりやすい首都東京の地位が上がり、大阪の地位は低下していきました。さらに、1964年に開通した東海道新幹線によって東京と大阪の移動時間が大幅に短縮され、大阪は東京の影響をますます受けるようになりました。大阪に本社をおく大企業の中には、本社を東京に移したり、大阪と東京に本社をおく会社もみられます。

1994年に開港した関西国際空港は、大阪府南部の泉州沖に造られた人工島で、24時間利用することができます。

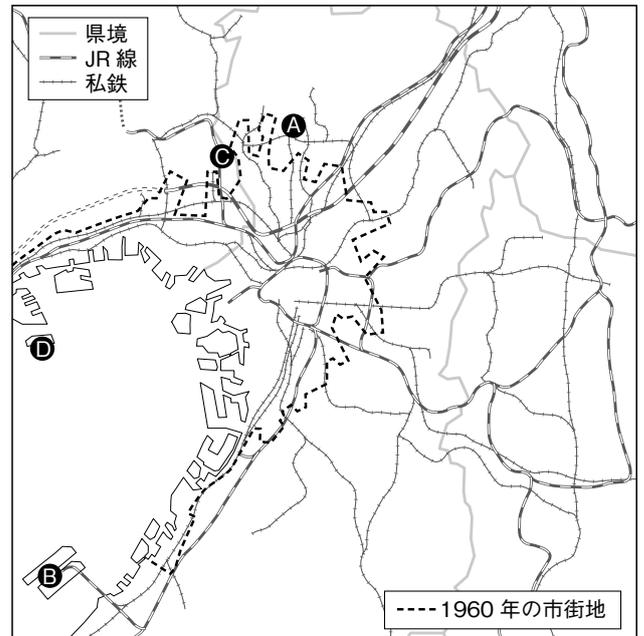
新空港の完成は、停滞している大阪経済を活気づけるものとして期待されました。発着する路線数や便数が思うように増えない時期もありましたが、近年では、航空機の着陸料の割引、格安航空会社(LCC)の乗り入れなど、距離的に近いアジアの各都市への路線の増加など、国際線の整備が進んでいます。

近畿地方の人口は、大阪・京都・神戸の三大都市に集中しています。これらの三大都市には、周辺の市町村から通勤・通学のために多くの人々が移動してきます。この地域は京阪神大都市圏とよばれ、中心となる三大都市と周辺の地域は鉄道で結ばれ、郊外の地域で生活し、中心部に通勤する生活の仕方が定着しています。

課題1 右の地図をもとに、次の①～③の作業をしよう。

① 大規模な開発によって生まれたAのニュータウンの名前と、B～Dの空港名を、次の欄に記入しよう。

A	B
C	D



② 右の地図のJR線は赤色、ほかの私鉄は水色に着色しよう。また、1960年ごろの市街地を緑色に着色しよう。

課題2 近畿地方の鉄道の特徴をふまえて、鉄道と市街地の広がりとの関係はどうなっているか、まとめよう。

課題3 右の表を参考に、近畿圏の経済活動について、【三大都市圏の経済活動】

特色をまとめよう。

上段: 県内総生産各項目の合計 (十億円) 下段: 全国に占める割合 (%)

	首都圏		中京圏		近畿圏	
	1960年	2016年	1960年	2016年	1960年	2016年
産業全体	3,935 26.4	182,161 33.1	1,408 9.5	55,252 10.0	2,810 18.9	80,454 14.6
製造業	1,529 32.1	25,222 21.4	550 11.6	20,118 17.1	1,174 24.4	17,225 14.6
卸売・小売業	650 25.9	28,316 40.9	245 9.8	6,109 8.8	538 21.5	10,556 15.3
金融・保険業	255 36.2	11,215 47.4	55 7.8	1,737 7.3	145 20.6	3,015 12.7

(内閣府「県民経済計算」より)

※首都圏は埼玉・東京・千葉・神奈川、中京圏は岐阜・愛知・三重、近畿圏は滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良をそれぞれ含む。

近畿地方 ⑤

近畿地方の まとめ

●学習のねらい●

これまで学習してきたことを
白地図に整理しよう。

ここでは近畿地方のすがたを理解するために、歴史的背景に注目してきました。それは、伝統的な街並みや伝統的な産業にとどまらず、現在の地域的特色や経済活動にも影響を与えているからです。

近畿地方の中央部には、京都・大阪・神戸・堺などが連なる京阪神大都市圏が広がっています。近畿地方には古代から都がおかれたため、古い歴史と文化をもつ地域が多くあります。また、瀬戸内海や琵琶湖を通した水上交通で日本各地やアジアの国々につながり、阪神工業地帯の発展に結びついてきました。

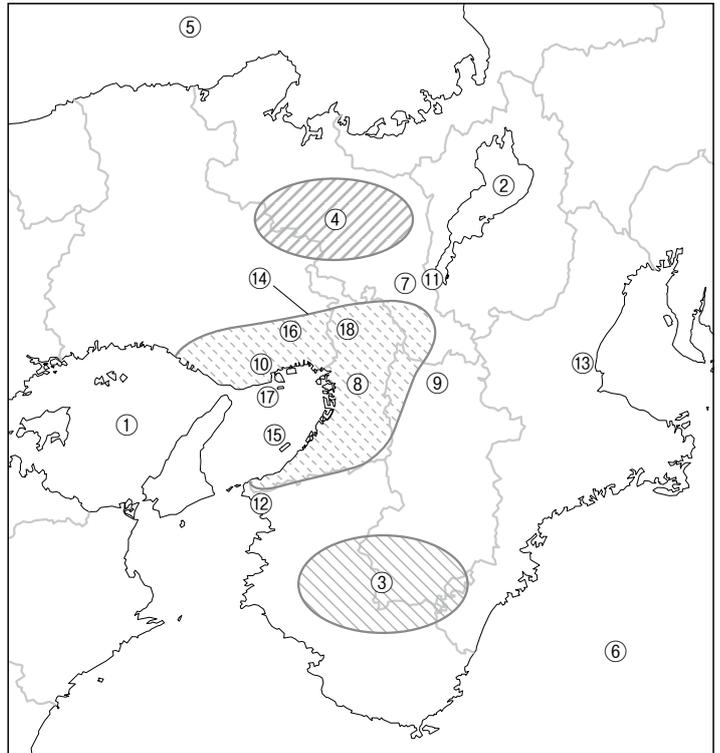
また、第一次世界大戦期、阪神工業地帯には、沖縄や朝鮮半島から多くの労働者が流入しました。特に大阪は、そうした歴史的背景が現在にも影響を及ぼし、沖縄出身者や在日韓国・朝鮮人が集住する地域があります。

1960年代以後、首都圏への一極集中が進むなか、近畿圏の日本経済に占める地位は低下していきました。関西国際空港の建設など大阪湾岸の再開発により、関西経済の復興が図られましたが、期待されたほどの開発は進んでいません。一方で、プラズマパネルや液晶パネルを生産する大工場が湾岸に立地し、工業生産を支えています。また、近年の大阪市の都心部では、大規模で高層のマンション建設などが進んだことにより、人口の増加が見られます。

1960年代以後、首都圏への一極集中が進むなか、近畿圏の日本経済に占める地位は低下していきました。関西国際空港の建設など大阪湾岸の再開発により、関西経済の復興が図られましたが、期待されたほどの開発は進んでいません。一方で、プラズマパネルや液晶パネルを生産する大工場が湾岸に立地し、工業生産を支えています。また、近年の大阪市の都心部では、大規模で高層のマンション建設などが進んだことにより、人口の増加が見られます。

課題 1 これまで学習した地名を整理しよう。

①	海	②	湖
③	山地	④	高地
⑤	海	⑥	洋
⑦	市	⑧	市
⑨	市	⑩	市
⑪	市	⑫	市
⑬	市	⑭	工業地帯
⑮	空港	⑯	空港
⑰	空港	⑱	ニュータウン



課題 2 次の「関西国際空港を通じて行われた貿易の主な相手先」を見て、気づいたことをまとめよう。

【主な貿易の相手先 (2019年)】

輸出 5兆 1872億円

アジア		67.8%
	中国	24.8
	(台湾)	15.6
	ASEAN	14.3
	(ホンコン)	7.7
	韓国	4.4
	その他	1.0
アメリカ		14.2
EU		13.7
	ドイツ	5.9
	その他	7.8
その他		4.3

(大阪税関「貿易統計」関西空港より)

輸入 3兆 9695億円

アジア		51.6%
	中国	25.6
	ASEAN	10.6
	(台湾)	10.2
	韓国	2.7
	その他	2.5
アメリカ		14.9
EU		23.1
	ドイツ	7.6
	フランス	2.9
	その他	12.6
スイス		5.2
その他		5.2
